



宮里藍プロのように  
世界で活躍できる  
プレーヤーになりたい。

沖縄ジュニアゴルファー育成会  
会員 千葉 華さん(12歳)



第3回全日本小学生ゴルフトーナメント全国大会  
2位の輝かしい賞歴を持つ千葉華さんのプレー

5歳でゴルフをはじめ、小学1年生の時に育成会に入会。スコアのつけ方やルール、どんな風に大会を回ればいいかなどを学んでいます。特にあいさつは基本。キャディさんやボランティアの方にもあいさつをします。練習が苦しいときは、「今のがんばりがいい結果につながる」と自分を励ましています。第6回全日本小学生ゴルフトーナメントの全国大会では、自己ベストの2位の成績を超える優勝をめざします。



バットを使ったスイング練習を  
指導する上原さん

義を貫く精神力を養うことが大切」と上原さん。そのため、毎月実施しているコンペラウンド前には勉強会を開催。独自のスコアを配布してマーカー署名・確認署名の指導も行っています。

「プロの選手でも勘違いやうかりミスで失格があります。あい



毎月30名ほど参加する  
定例の沖縄ジュニアゴルファー育成会コンペ



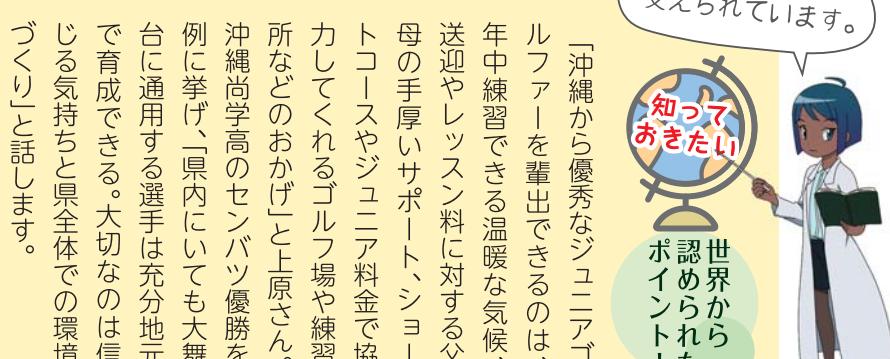
定例コンペの受付は父母を中心に

### ゴルフを通じて社会に貢献できる人材を

さつなどのマナーやスコアなどのルールは日頃から徹底しないと身につかず、ジュニアでの教育が大事なんです」。

諸見里しのぶプロや大城さつきプロなども育成会の出身。彼女たちの活躍が後輩ゴルファーのお手本や励みになっています。

最終的にはゴルフを通して社会に役立つ人、世の中に何かを還元できる人になってもらいたい」と夢を語る上原さん。そのためには父母の協力が必要だといいます。「技術面ばかりを考えずに、人間形成にも目を向けてもらいたい」。大きな世界へと羽ばたく沖縄ジュニアゴルファーを支える育成会の草の根活動は、これからも地道に続けます。



多くの人たちに  
支えられています。

「沖縄から優秀なジュニアゴルファーを輩出できるのは、

母の手厚いサポート、ショートコースやジュニア料金で協力してくれるゴルフ場や練習所などのおかげ」と上原さん。

沖縄尚学高のセンバツ優勝を例に挙げ、「県内においても大舞台に通用する選手は充分に地元で育成できる。大切なのは信じる気持ちと県全体での環境づくり」と話します。

飛び出せ!! OKINAWA   みんなで  
ゴッジョブ運動

## ヒト・モノ・企業のグッジョブ

沖縄を飛び出し、県外や海外で認められている  
ヒトやモノ・コト、企業のあふれる  
パワーをお届けします。

ゴルフ

今回のグッジョブは  
ジュニアゴルフ王国・沖縄を支える  
『沖縄ジュニアゴルファー育成会』です。



定例コンペの会場  
「南山カントリークラブ」



沖縄ジュニアゴルファー育成会事務局長  
(九州ゴルフ連盟ジュニア育成委員会 代表委員)  
上原修さん

多くのジュニアがマナー・ヤル力を見つめながために、親子いつしょに勉強会を開いて指導をしていました。その雄姿は県民に元気や誇りを感じさせてくれます。彼女たちのほとんどが、ジュニアゴルファー時代から全国で好成績を残し、ジュニアゴルフ王国・沖縄を全国に印象付けてきました。世界に通用するプロゴルファーの卵たちをサポートしているのが、平成九年に発足した「沖縄ジュニアゴルファー育成会」です。県内ゴルフ場関係者や指導者などが、ジュニアゴルファーの父母らと協力しながら組織を運営しています。

アゴルファー育成会事務局長(九州ゴルフ連盟ジュニア育成委員会 代表委員) 上原修さん。ゴルフスクールのインストラクターとして指導を行いながら、育成会の活動にも情熱を注いでいます。

多くのジュニアがマナー・ヤル力を知らなかつたため、親子いつしょに勉強会を開いて指導をしてきた」と話すのは、事務局長の上原修さん。ゴルフスクールのインストラクターとして指導を行いながら、育成会の活動にも情熱を注いでいます。



コンペ前の勉強会ではルールやマナーについて質問形式で学習(指導担当:九州ゴルフ連盟ジュニア育成委員会小玉マリ子さん)

ジュニアゴルファーの健全な育成のために